

あたらしい絵本 No. 437 2023. 1. 11



『きょうりゅうかくれんぼ』 アレックス・ラティマー／作
・これからいっしょにあそぼうよ。なにをするかって？ それはね、きょうりゅうかくれんぼ！ 小さな恐竜アンキサウルスといっしょに、かくれた恐竜たちを探しにいこう。親子で楽しめる参加型絵本。（幼0～5歳）



『ピカチュウとよるのたんけん』 まつお りかこ
・ピカチュウ、イーブイ、デデンネ、ミミッキュが、まっくら山のとっぺんまで、夜の探検に出発！ 大きな満月の夜には、こわ～いおばけがでるみたい。でも、みんなと一緒になら大丈夫！（幼0～5歳）



『しかくいなのじかん』 ベッキー・キャメロン／え
・お父さん、男の子、「しかくいなの」、それから、ねこのボク。さあ、「しかくいなのじかん」が始まるよ。親子の絵本の読み聞かせタイムにいつもいっしょにいる猫の視点から、子どもの成長と読書の変化をユーモラスに描く。（幼0～5歳）



『ひかるめのなぞ』 ささき ふみひこ
・暗い夜に光っているのは、ネコをはじめとする哺乳類の目。どうして光る目になったのか。それは恐竜の時代までさかのぼる。哺乳類の祖先たちは、恐竜が眠る夜になってから食べものを探していて…。（幼0～5歳）



『おうちすいえいたいかい』 青山 友美／絵
・おうち水泳大会のメドレーリレーがスタート！ 家電やおもちゃ、食べ物などが「おそうじチーム」「あそびチーム」「おふろチーム」「たべものチーム」に分かれて競います。手に汗握る大混戦、勝つのはどのチームでしょう？（幼0～5歳）



『ちいさなちいさなヤクのパーティ』 ケイト・ヒンドリー／絵
・雪山で暮らすヤクの群れのなかに、ちいさなヤクのパーティがいます。パーティはたくさん食べて運動しますが、大きくなれません。そんなある日、小さいおかげで役に立てることが…。（幼0～5歳）



『ひとがみたらカエルになあれ』 いもと ようこ／文・絵
・お寺の小僧さんは、もらった小銭を、鐘つき堂のそばの草むらに隠しました。そして、小銭に「ぼくが見たときには銭っこで、よその人が見たときにはカエルになるんだよ」と言い聞かせました。それを見ていた和尚さまは…。（幼0～5歳）

新しい絵本はほかにもあります。貸出中の時は、予約をしていただくと本が戻ってきた時、連絡します。電話での予約も受け付けていますので、お問い合わせくださいね。



『おばけのしかえし』 山本 孝／絵

・殿様におばけ退治をいいつけられた豪傑がやってきて、次々とおばけたちをやっつけます。おばけの子供たちも怖くて震えています。豪傑にたちうちできるおばけはいるのでしょうか？「おばけのきもだめし」の続編。（幼3～5歳）



『空からふってきたおくりもの』

テリー・ファン&エリック・ファン／作

・虫たちの世界に、ある日突然、空から丸くて美しい色をした「なにか」が降ってきました。みんなは興味津々。それを見たずるがしこいクモは、その不思議なものを展覧会でお披露目して大儲けしようとするのですが…。（幼3～5歳）



『げんきになったよこりすのリック』 とりこえ まり／絵

・病気になって長い間、入院していたこりすのリックは、やっと退院して久しぶりに学校へ。ちょっとときどきしていましたが、みんなが拍手でむかえてくれました。リックは少しずつ元気を取り戻していき…。（幼3～5歳）



『いねむりおばあちゃんとぼく』 さく・え／高畠 じゅん子

・幼稚園のお迎えは、いつもおばあちゃん。電車に乗って帰るんだ。おばあちゃんはすぐに寝ちゃうけど、降りる駅が近づくと、ちゃんと起きるから不思議。ところが今日はなぜか、おばあちゃんが起きてくれない。どうしよう!?（幼0～5歳、小初、小中）



『まるがいいっ』 庄野 ナホコ／絵

・どうぶつたちは、まるが好き。食べ物も、髪型も、メイクも、家も、みんなまる。「なんでもまるくすれば売れるぞ!」と、まるいものが次々つくられた。ところが、あっという間にまるの人気はころがり落ちて…。（幼3～5歳、小初）



『ゆめぎんこう おじいちゃんのおともだち』 コンドウ アキ

・ゆめぎんこうは、夢をアメにして売る不思議なお店。店主のぺんぺんと、夢をアメにかえるもぐもぐが、おじいちゃんのお友だちの家へ、夢の買い取りに出かけると…。（幼3～5歳、小初）



『まほうのともだちベンチ』 ダニエル・イグナス／え

・転校してきたばかりでひとりぼっちのティリー。そんなティリーに、先生が「ともだちベンチ」を試すように言います。座るとともだちができるというベンチに行ってみると、そこには男の子が座っていて…。（幼3～5歳、小初）



『点』 文・絵／ジャンカルロ・マクリ カロリーナ・ザノッティ

・それぞれの環境が異なる、黒い点と白い点。救いの手を差し伸べ、ともに生きることにはできるのか。「点」というモチーフを用いて、難しい移民難民問題や「連帯」「共助」「思いやり」などについて考えるきっかけを与える絵本。（幼3～5歳、小初）